

第 10 章 鉦 害

第 10 章 鉱 害

1 概 要

本市の石炭産業は、江戸時代末期、片寄平蔵らによって採掘が開始されて以来、最盛期の昭和26年には、83炭鉱、2万3千人の鉱員を擁し、年産300万トン前後の採炭量を誇っていました。

しかし、石油エネルギーの普及により衰退の一途をたどり、昭和51年9月、常磐炭礦(株)西部礦業所の閉山により終わりを告げました。

本市では、このように広く石炭の採掘が行われたため、浅い坑道の崩落によって陥没する、いわゆる浅所陥没の鉱害が毎年発生しており、国県等の関係機関と連携して復旧工事を実施しています。



2 浅所陥没復旧工事

本市による浅所陥没復旧工事の年度別実施状況及び令和元年度の浅所陥没復旧工事の施工状況は、表10-2-1~2のとおりです。

表10-2-1 本市による浅所陥没復旧工事の年度別実施状況

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元 (H31)
箇所数	3	80	9	9	7	4	4	5	4	3
工事業費 (千円)	3,957	23,337	4,775	7,970	5,564	2,185	3,046	1,674	6,076	3,115

表10-2-2 令和元年度浅所陥没復旧工事

(単位:千円)

No.	所在地	被害箇所	主な内容	事業費
1	勿来白米地内(3箇所)	農地	土工	3,115